

10 谷崎 潤一郎文学碑

■場所

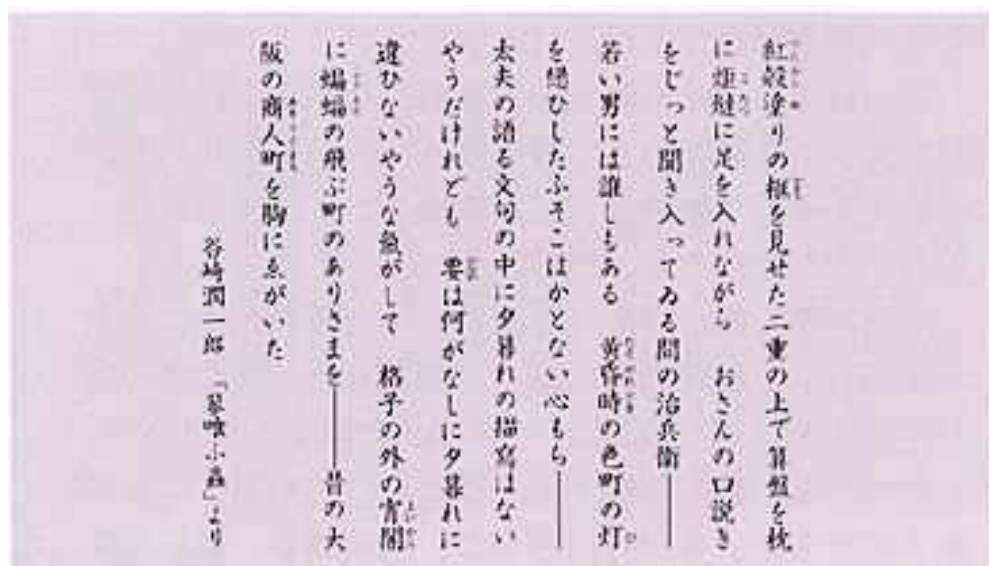
中央区日本橋一丁目

国立文楽劇場西

■交通

地下鉄:日本橋

(7号出口)



谷崎 潤一郎(1886 年～1965 年)

谷崎潤一郎は、明治 19 年(1886 年)東京市日本橋区蠣殻町二丁目(現中央区日本橋人形町一丁目)に生まれ、昭和 40 年(1965 年)7 月 30 日死去した。

阪本尋常高等小学校(現中央区立阪本小学校)、府立第一中学校(現日比谷高等学校)、第一高等学校(現東京大学)を経て、東京帝国大学文学部国文科にすすんだ。

明治 43 年、和辻哲郎らと発刊した第二次『新思潮』に、「誕生」「刺青」「麒麟」などを発表した。これが永井荷風に激賞され、翌 44 年、文壇にデビューした。以後、「悪魔」「饒太郎」「富

美子の足」などを発表し、当時悪魔主義の文学と言われた。

大正 12 年、関東大震災を契機に関西に移り住み、その風土と伝統文化にひかれ、純日本的、古典的なものへの関心を高めた。「卍」「蓼喰ふ蟲」でその志向を明らかにし、「盲目物語」「蘆刈」「春琴抄」などでは女性を讃美し、永遠の美を追求した中期の名作群を生むこととなった。

このあと、戦争中は「細雪」、戦後は「少将滋幹の母」「鍵」「瘋癲老人日記」などを発表、豊かな官能美と陰翳ある古典美の世界を展開し、常に文壇の最高峰を歩みつづけた。昭和 24 年、文化勲章を受賞。

「蓼喰ふ蟲」は、昭和 3 年から 4 年にかけて東京日日、大阪毎日の両新聞に連載されたもので、関西移住後 5 年にして、古典回帰への変容を示しだした作品として重視されている。また、翌年千代子夫人と離婚して世間を驚かせた事件があったが、作品の中に、その影を思わせるものが描かれているといわれている。

墓所は、京都市左京区鹿ヶ谷の法然院。東京都豊島区巢鴨五丁目の慈眼寺には、分骨埋葬されている。